

作物名：キャベツ

病害虫名：ヨトウガ（学名：*Momestra brassicae*）



葉裏に産み付けられた卵塊



若齢幼虫



老齢幼虫

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・ 幼虫が葉を食害する。若齢幼虫はシャクトリムシのように歩く。外葉の1～2葉に群生して食害するため、食害痕はスカシ状になる。発育が進むと分散し、結球内部に入って食害する機会が多く、食害量が増える。終齢幼虫になると、日中は土壤に接した外葉の裏や土中に潜み、夜間に葉を食害する。
- ・ 卵は100～200粒ほどの一層の塊で葉裏に産み付けられる。

2 発生生態及び発生好適条件

- ・ イネ科以外の広範囲の作物を食害する重要害虫である。
- ・ 東北地方では春から秋にかけて年2回発生し、成虫は主に5～6月及び7～9月に発生する。幼虫は6～10月まで連続的に発生する。暖地では、夏に土壤中で休眠蛹となるが、東北では夏眠しない。
- ・ 秋季に発生した幼虫は蛹になり、土壤中越冬する。

3 防除方法

(1) IPM 体系

- ・ 大麦リビングマルチと他の防除方法（定植前灌注処理、緑黄色LED、交信攪乱剤及びBT剤）を併用することで、化学合成農薬使用を半減できる。

(2) 耕種的防除

- ・ 卵塊や、若齢幼虫の群生している葉は、切り取って処分する。

(3) 化学的防除

- ・ 育苗期後半から定植時は薬液灌注、定植時は粒剤植穴処理による防除が可能である。
- ・ 老齢幼虫になると、日中は外葉の裏や土中に潜んでおり薬液がかかりにくくなるため、薬剤散布による防除は若齢幼虫を対象とする。
- ・ 薬剤抵抗性の発達防止のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・ 薬液は、葉裏にもよくかかるよう散布する。
- ・ 同じチョウ目害虫の、コナガ、モンシロチョウ、ウワバ類と同時防除できる。

4 出典

- (1) 参考文献：みやぎの野菜指導指針（宮城県）
農業総覧 病害虫防除・資材編3（農文協）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影

(2021年3月改訂)